



がん哲学外来市民学会第8回（第9回がん哲学外来コーディネーター養成講座）
大会長 矢形寛先生 追悼記念号

一般社団法人 がん哲学外来 理事長/ がん哲学外来市民学会 代表 樋野 興夫

2019年7月6日「ウエスタ川越」に於いて、「第9回 がん哲学外来コーディネーター 養成講座 in 埼玉」の実行委員長、翌日の「第8回 がん哲学外来市民学会大会」の大会長を務められた 埼玉医科大学総合医療センター プレストケア科 教授：矢形寛先生が、2019年9月11日 満55歳で、逝去された。

がん哲学外来市民学会大会の時の、入院中のベッドからのビデオメッセージが鮮明に蘇る。会場の多数の参加者・がん患者が、矢形寛先生の御姿にどれ程、元気付けられたことか！忘れ得ぬ思い出となった。矢形寛先生の「先見性・力量・胆力」には、大いに感動した。

その後、病棟にお見舞いに行ったのが今生の別れとなった。9月15日（日）18:00～の通夜（世田谷区用賀会館）に参列した。私は、矢形寛先生のお計らいで、定期的に毎月、埼玉医科大学総合医療センター プレストケア科の小江戸「がん哲学外来」に赴いている。『懸命な心温まる「おもてなし」』、「賢明な寛容性」のある矢形寛先生ご夫妻には本当に感謝である。矢形寛先生の生涯は、「火焰のうちにある燃料の如く自ら燃えよ！」であった。

ここに、謹んで哀悼の意を表します。何時の日か、天国で、矢形寛先生を囲んで、「がん哲学外来・カフェ」を開催したいものです。

東海大学医学部血液・腫瘍内科 教授/がん哲学外来市民学会 副代表 安藤 潔

矢形ご夫妻と初めてお会いしたのは昨年富山での第8回コーディネーター養成講座の会場でした。寛先生は外科医らしくてきばきと意思決定され、傍に控えていらっしゃる康代さんがそれをフォローするというすばらしいパートナーだな、というのが初印象です。

その後、川越での養成講座、市民学会大会の準備を進めて素晴らしいプログラムを作ってくださいました。また、市民学会にも多くのアドバイスをいただき、今回の学会ホームページの大幅な刷新もそのアドバイスがきっかけです。初代の中心メンバーが高齢化する中で、これからの学会は一世代下の矢形先生方が中心になっていただければと一安心したところでした。ですから、今年の小諸でのアドバンスコースで康代さんから寛先生のご入院について伺った時は大変驚きました。そして大会当日の寛先生のビデオメッセージには患者としての思いがあふれていて、退院後のご活躍に活かしていただけるものとばかり思っておりました。

矢形寛先生ご逝去の報に接し、衷心よりお悔やみ申し上げます。

金沢大学附属病院緩和ケアセンター長/金沢がん哲学外来代表 山田 圭輔

矢形先生と最後にお会いしたのは、2018年7月に富山市で開催されたがん哲学外来市民学会第7回大会でした。先生は、次年度大会長として閉会の挨拶をされ、がん哲学外来市民学会第8回大会の素晴らしいプログラムを計画されました。体調を崩されていると聞いておりましたが、先生の訃報を聞き、とても残念でなりません。

矢形先生は、平成2年に金沢大学医学部を卒業されており、私の1学年先輩でした。卒業後は関東地方で修練を積み、臨床活動と医学研究で素晴らしい活躍を続け、一方で患者さんに寄り添い、哲学的な考えと活動も大切にされていました。エネルギーに満ちていた先生の姿を思い出します。ご冥福をお祈りします。

伊勢崎市民病院外科診療部長 片山 和久

矢形先生、先生と色々とお話できた昨年富山での市民学会の時のことを思い出します。翌年の埼玉大会の開催を控えて、ニコニコしながら、飄々として晴れやかに埼玉大会のことを語っていただきましたね。きっと素晴らしい市民学会になるのだろうな、と思っていました。

今年の埼玉大会の少し前に「実は体調が優れなく、矢形は学会参加は難しいかも…」と奥様より聞かされておりましたが、市民学会の冒頭で流れたビデオレターの挨拶を拝見して衝撃を受け、声が出ませんでした。手紙の挨拶でも良いところを、先生の律儀さ・真面目さで、御自身に課せられた大会長としての務めを果たされようとしたのですね。そして、先生は見事にその勤めを果たし、思いの詰まった最高の市民学会になったと思います。

ビデオレターの言葉で「人は優しさに癒されます。看護師さんの笑顔ほど和むものはないですね」とおっしゃっていましたが、医療者が忘れてはならないがん哲学外来の精神そのものだと思います。矢形先生、天国ではどんな「がん哲学外来」をされるのですか？ご冥福をお祈り申し上げます。

春日部・野田がん哲学外来&メディカルカフェ 代表 高野 みどり

矢形先生の突然の訃報は、悲しみと共にやりたかったことを沢山残したまま召された先生の中を思うと言葉がありません。山田邦子さんのブログ（2019.9.16）に、矢形先生と出会われたすべての患者のことばを代表するような一文が目にとまりました。

「患者と向き合い、多くの乳がんをやっつけてくれた偉大なる先生」、更に「誠実で、天才で、医師であり研究者」、「『先生、私、死ぬ？』『死なない!』と即答してくださった時の先生の目が本当に真っ直ぐ私を見て嬉しかった!!」

私が初めて先生とお会いしたのは、2016.11.23の「彩の国がん哲学外来カフェ合同シンポジウム 対話する医療」のパネルディスカッションの司会をしてくださった時でした。そして最後になった埼玉での市民学会の大会長としての先生でした。会議では、委員の一人一人の意見に耳を傾け、～比較からの脱却～をテーマにされたことが思い出されます。「真っ直ぐに」向き合う先生のお姿が今も私の心に刻まれています。

神戸薬科大学**横山 郁子**

矢形先生とは2017年7月に神戸で開催された市民学会で初めてお目にかかりました。第一印象は「はつらつ」。2年後の埼玉大会を目指して見学にいらっしやったのですが、「大変だということは、よくわかりました」とおっしゃる笑顔が印象的でした。

それから2年、お別れの時が来るとは思いもしませんでした。奥様や周りの方々のお悲しみはいかばかりかと思えます。

ただ、私の中では、あの澁刺とした矢形先生が今もいらっしやいます。

東村山がん哲学外来メディカルカフェ 大弥 佳寿子

矢形先生との思い出は、昨年ラジオ日経の番組「樋野興夫のがん哲学学校」で直にお話を伺えたことです。

私の質問に矢形先生は分かりやすい言葉で真摯に答えて下さいました。その揺るぎないあたたかな眼差しを忘れません。

いつか天国のカフェで、今年のがん哲学外来市民学会のテーマ「患者－医療者間のギャップを考える～比較からの脱却～」について、先生と思いきり語りたいと思います。

ご冥福をお祈り申し上げます。

松本がん哲学みずたまカフェ**齋藤 智恵美**

私が矢形先生のお声を直接聴く機会に恵まれたのは昨年7月のがん哲学外来市民学会で矢形先生が次回の大会長として挨拶をされた時でした。

それから間もなく「ラジオ」日経の樋野先生の番組を通して矢形先生のお声に再会しました。「手術も抗がん剤も好きじゃないんですよ。患者さんを傷つけるものですから」。そう語る矢形先生はどれだけ真摯に患者さんと向き合って来られたのか、それを思うだけで私の胸はいっぱいになりました。

また矢形先生のお声に会いたいと思います。心からご冥福をお祈り申し上げます。

目白がん哲学外来**森 尚子**

お通夜の会場（世田谷区 用賀会館）に入ると、矢形先生の穏やかな語りかけるような笑顔が目に入りました。会場には、ラジオ日経に出演された時の、矢形先生の声が残っていました。まるで、この場にいらっしやるような、悲しみの中にもあたたかい癒しの時間でした。

誠実でユーモアがあり、医師として人間として本当に素晴らしい先生でした。今頃、天国ではカフェに参加されているのでしょうか。私もいつか参加しますね。

矢形先生ありがとうございました。

大阪谷町がん哲学外来・画廊カフェ**野見山 芳裕**

ご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。心から矢形寛先生のご冥福をお祈り申し上げます。

富山での研修では元気なお姿で次回の「ウェスタ川越」の案内をされていたのに、川越ではビデオ出演でのお姿に心配しておりました。

川越で学んだ「やり場のない思いにどう寄り添うか」を今後、我々のカフェで実現することが矢形寛先生への最大のご恩返しになると思います。

どうか見守っててください。

がん哲学外来相模原・F代表**村上 利枝**

矢形寛先生のご訃報に接し、悲しい思いで一杯です。昨年7月の富山でのがん哲学外来市民学会でのご様子が目に浮かびます。2019年の市民学会に備え、次年度に向けての構想を練られながら、熱心にメモされていた。

川越大会のご成功は、そのような矢形先生のご努力が実を結ばれたことだと存じます。本当に有難うございました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

福岡ホスピスの会ぬくみカフェ**柴田 須磨子**

今年の埼玉での大会長が欠席とは…、どれ程に口惜しく、また大会の成功を闘病のさ中で祈っておられたことごさいます。

この遠い九州の地でも矢形先生のお名前は有名で今回の訃報の御知らせも早くに知ることとなりました。七月のビデオレターが一期一会となりましたが、とても柔和な温もりを感じ、医師から患者の立場に変わられたお話は鮮明に心に焼き付いております。

どうか安らかに、そしてこの先も私たちの導き手として見守って下さいませ。ご家族の上にも神さまの憐れみと慈しみをお祈り致しております。 合掌

がん哲学外来・まちなかメディカルカフェ in さいたま源川 達也

樋野先生より「力になってあげてください。」とのことで矢形先生と川越で複数回、お会いしたのが約3年前でした。

埼玉医科大学総合医療センター内に、誰でも参加できるコミュニティの場を作りたいとお考えでした。色々な制限がある中で「開かれた病院」への矢形先生の熱い思いに触れ…、いつか必ず「カフェ」ができる日を想っています。

がん哲学外来市民学会でのビデオレターでの矢形先生のお姿が脳裏に焼き付き…、「カフェ」を実現させたいです。

ながれやまがん哲学外来カフェ 春日井 いつ子

このメッセージを書く手が震えています。悲しくて、むなしくて…。矢形先生なぜですか、いつからなのでしょう。

昨年夏、お元気に「日経スタジオラジオ番組」で心に残るお話しをなさいましたね。コメントに笑い声が残っています。全国には数え切れない程の方が矢形先生と出会って生きる希望を持ちました。

天国で、「矢形先生。見つめていてくださいますか」。笑顔のお写真が悲しいです。

佐久ひとときカフェ

井出 美由紀

矢形先生とお会いしたのは7月7日の市民学会でのビデオレターでした。最後のご対面になるとは夢にも思わず…。第8回大会は多くの経験と学びから、人としてさらに成長し、“空っぽの器”をより頑丈でより大きなものとすることができました。

大きな仕事をされて生き抜いた矢形先生のご冥福を心からお祈りいたします。

金沢がん哲学外来

小石川 均

2019年7月実施のがん哲学外来市民学会第8回大会の素晴らしいプログラムに取り組んでこられた矢形先生が、ビデオでの大会長挨拶をされましたのでとてもびっくりしました。

同時に思い出されたのが、金沢で開催された市民学会時における西村元一先生のビデオ挨拶でした。矢形先生のビデオを観ながら一日でも早く回復されることを祈っておりましたが、大変残念です。

ご冥福をお祈りいたします。

福井県済生会病院

浅井三姉妹記念がん哲学外来

車屋 知美

矢形先生と初めてお会いしたのは第7回がん哲学外来コーディネーター養成講座の会場でした。今年開催された第9回がん哲学外来コーディネーター養成講座の実行委員長、第8回がん哲学外来市民学会大会の大会長だった矢形先生が、その2回前の養成講座と大会から見学をされるとは「なんて物事に真摯に向き合う方なのだ」というのが第一印象でした。

矢形先生の物事に向き合う姿勢は自分の中で今後も大切にしていきたいです。

がん哲学外来お茶の水メディカルカフェ 岡田 担子

矢形寛先生。憧れの宇宙はいかがですか？「ウエスタ川越」での市民学会のとき、先生のメッセージを伺い、もう一度お目にかかれること切に願ってお祈りをしていました。

天国で優しい先生とみなさんが歓談され安らかな日々をお過ごしでいらっしゃることと存じます。いつかお茶を汲みにまいります。どうぞ私たちのため良い見守りをお願いいたします。

がん哲学外来市民学会事務局

片桐 孝子

今年5月の市民学会アドバンスコース開催の20日前、矢形寛先生からのメールには「当日は、15:31に佐久平到着予定です。レンタカーを借りるので送迎は不要です」とありました。そのメールから5日後に秘書の奥様から矢形先生がご体調を崩されているとのご連絡を受けました。お一人でアドバンスコースにいらした奥様から、矢形先生は7月大会の参加も難しいかもしれないことを伺いました。

ご夫妻は2年前から神戸、富山と大会に足を運び、構想を練られて来られました。いよいよ埼玉大会を目前にして、先生と奥様の苦悩は想像を絶することだったと思います。それでも埼玉大会のご準備の手を緩めず歩んでくださいました。矢形先生の信念とご夫妻を応援し支える仲間の皆様との絆で実現した「第9回がん哲学外来コーディネーター養成講座」と「がん哲学外来市民学会第8回大会 in 埼玉」の全てを心に刻み、学会員の皆様と共に守り伝えていきたいと思っております。

東久留米がん哲学外来 in メディカル・カフェ

角田 則明

初めての出会いは、妻（万木）と参加した資生堂のイベントでした。

パネリストの先生は「薄化粧をして貰ったんだよ～」と満更でも無い、はにかんだ表情がとても印象的でした。どうか安らかに眠り下さい。

がん哲学外来カフェ in 万座

市村 雅昭

埼玉での市民学会第8回大会に於いて、矢形先生の御挨拶が先生ご自身のビデオレターで行なわれたと人から聞いた時は、まさかこの様に逼迫した状態であったとは考えも出来なかったです。

医療者としてがん哲学外来を当初はご理解出来なかったと矢形先生はおっしゃいましたが、矢張り医療者とがん患者との隙間にお気づきになり、その後は熱心な樋野先生の活動に共感され、この度の大会のテーマを「患者—医療者間のギャップを考える」とされました。余りにも早すぎた先生の御意志を必ず引き継ぐことが、われわれに残された使命であると考え、先生の安らかなご冥福をお祈りいたします。

<編集後記> がん哲学外来市民学会広報 星野 昭江

矢形先生。先生の訃報はあまりにも突然でした。ですから私（編集子）は先生がお亡くなりになったことを信じてはいません。私の元には「お別れの言葉を綴ることが出来ません」という方々の声がたくさん寄せられました。そうです。皆さんが先生あの颯爽とそして澁刺としたお姿をずっと記憶しているのです。亡くなってなんかいません。矢形先生。先生と出逢えたことを誇りにしてこれから生きていきます。合掌